

平成29年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回 精神障がい者地域生活推進 部会	参加者数	27人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成 29 年 6 月 12 日 (月) 13:30 ~ 15:10				
主 題 マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 2 精神保健福祉法改正について 3 長野県自立支援協議会 精神障がい者地域移行支援部会報告 4 グループスーパービジョンを用いた事例検討:「事例検討って怖くない」 5 その他 					
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> 1 について <ol style="list-style-type: none"> (1) 辰野アドバイザーより <ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする方の今の支援だけでなく、人生の先を見据えた支援を考えることが大切である。 (2) 伊東部会長より <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は福祉、行政、医療の見える化をテーマに、今ある社会資源の活用や連携について考えてきた。 ・今年度も引き続き「見える化」をテーマに、困り感を理解してつながりを強め、地域支援力を高めたい。 ・具体的には、当事者の声を積極的に取り入れながら、高校出前講座や地域移行・地域定着支援、精神障がい者の高齢化等の課題に取り組む予定である。 2 について(大石副部会長より) <ul style="list-style-type: none"> ○国会に提出中の標記改正案の概要と問題点について、当事者の視点を交えながら、説明があった。 ・法案は現時点で参議院を通過。衆議院での審議入り目途は立っていないが、予断を許さない状況。 以下のように、問題の多い法案であるため、当事者、支援者ともに反対の声を上げてほしい。 (1) 法改正趣旨: 昨年の相模原事件を法改正の理由とするのは、精神障がい者の差別助長との当事者団体等からの声を受け、政府も相模原事件の文言を削除した。この時点で立法理由を欠いている。 (2) 地域移行促進: 重度かつ慢性の方が外れることで社会的入院者の6割が対象外となる。 (3) 措置入院対象者の退院後支援計画: 転居予定先自治体へも個人情報が出流するおそれがある。また、計画作成に当事者や家族は「必要に応じて」入れる仕組み。「必ず」入れるわけではない。 (4) 精神障害者支援地域協議会: 全体会には警察も入る。プライバシー侵害、病状悪化等が心配される。 (5) 精神保健指定医養成: 措置入院の判断経験を入れることで、措置入院の増加が懸念される。 (6) 医療保護入院: 市町村長同意でほとんどの医療保護入院が可能になるおそれがある。 ・1当事者として、トップダウンの支援でなく、当事者の望む支援をボトムアップで組み立ててほしいと願う。 3 について(きらりあ 春日より) <ul style="list-style-type: none"> ・第5期障害福祉計画における成果目標として、入院後3か月時点での退院率の目標値が、平成29年度の64%から69%に引き上げられた。圏域単位で連携して退院後支援等に取り組んでいく必要がある。 ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて、自治体ごと検討を進めていくこととなった。 ・地域移行推進ガイドラインについては、従前のものを図表、イラストに整理してまとめたものである。 ・地域生活支援拠点整備も始まる中、指定一般事業についての理解を部会でも深めていきたいと思う。 4 について(参加者全員 全体説明:きらりあ 春日) <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度最後の部会に引き続き、グループスーパービジョンによる事例検討を行った。 (1) グループスーパービジョンとは何か 概要説明(略)。 (2) 3グループに分かれ、グループスーパービジョンを体験した。(約1時間) (3) 参加者の感想など <ul style="list-style-type: none"> ・初めての参加だったが楽しかった。孤独で批判される印象の強い事例検討が、体験してみて、みんなでチームになれたような気がした。(参加者) ・前回いただいたアイデアが意外と実践できると分かり驚いた。また、多くのアイデアをいただいたので、うまくいかなくてもまだ他の方法があると思えて、気分的に楽に支援ができています。(前回事例提供者) ・これからどうしようと思っていた矢先の事例だったが、奇抜なアイデアをたくさんいただき、気持ちが楽になり、元気になれた。(事例提供者) 5 について <ul style="list-style-type: none"> ・6月24日(土)の午後1時半より松本あがたの森文化会館講堂にて、長野ダルクの方3名による薬物依存症の講演がある。興味のある方はぜひご参加ください。(大石副部会長) 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉法改正の動きや県自立支援協議会の部会報告について、情報を共有することができた。 ・グループスーパービジョンの体験を通して、事例検討を新たな視点から捉え直す機会とすることができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細が決まり次第、お伝えする。 					

平成29年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回精神障がい者地域生活推進部会	参加者数	18人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成29年9月11日(月) 15:00 ~ 17:10				
主 テ ー マ	1 関係機関それぞれの役割や立場の理解 2 上伊那圏域の精神障がい長期入院者の現状 3 グループスーパービジョンを用いた事例検討 4 その他					
主 な 意 見 な ど	1 について ○本部会でテーマに掲げている「見える化」について、参加者がそれぞれどのような思いを抱いているかを原点に立ち返って、皆で考えた。 ○「見える化」とは？に対する主な意見は、次のとおり。 ・支援者の思いの共有。話をすることで本人中心の支援につながる。自分をさらけ出すこと。 ・当事者にとって何がよいのか、ケア会議での思いの共有。 ・より良い支援のため、ピアサポーター(当事者支援員)の活用も視野に入れてほしい。 ・精神障がいの人の大変さは見えにくい。そこをスタッフ同士分かり合うこと。 ・数値化により、成果や課題などを可視化していくこと。 ・病院の退院までのタイムスケジュールと地域の受入態勢の間の相互理解促進。 ・圏域の様子や課題をお互いより深く理解し、連携を深めること。つながりが大事。 など					
	2 について(伊那保健福祉事務所 羽場保健師より) ○平成29年1月に県が実施した精神障がい者の地域移行に関する調査結果をもとに説明があった。 ・上伊那圏域で1年以上の長期入院者の数は、H28.12.1現在で67人(65歳未満35人、65歳以上32人)。 ・1年以上の長期入院者をみると、上伊那圏域は県全体や南信地域と比べ、65歳未満の割合が高く、環境を整えば退院できる方も65歳未満の方が多い。 ・介護サービスが必要となる高齢者になる以前から、退院・地域定着できるような支援を継続して提供していくことが必要である。					
	3 について (1) グループスーパービジョン(デモンストレーション) ○グループスーパービジョンのやり方を学ぶため、グループスーパービジョン経験者に初めての方を交えた8人のメンバーで、実際の事例をもとに、随所で説明を加えながら、デモンストレーションが行われた。 (2) デモンストレーションを見ての感想発表 ○出された主な感想や意見は、次のとおり。 ・いろいろな気づきや発見がたくさんあり、楽しい。自分の視野の狭さに気づくことができる。 ・アイデアがたくさん出る。当事者も意見が言いやすい。支援もよい方向へ向かいそうである。 ・本人の良いところ、楽しめること、好きなことについて、考えられるよい方法だと思ふ。 ・病院内で2か月に1回実施しているが、事例提供者が楽になれるという声をきく。 ・例えば、相談支援専門員さんが、この方式を採り入れたケア会などをやってみてはどうか。 ・答えや枠を一方的に設定したり、事例提供者を責めがちな従来型事例検討とは180度違うもので、発想の拡がりを感じられる。 ・実施に不安もあるが、経過も含めた実践例があれば、教えてほしい。 ・異業種とのコラボができると、地域づくりなど、さらなる発展性も見込めるのではないか。 ・事例提供者は事例をまとめる中でじっくり省察ができ、参加者も対等な立場で向き合える点がよいと思ふ。 ・日々の実践にいかに取り入れるか。たんなる研修で終わらず、実践に活かせるものにしていきたい、など					
	4 について(事務局ほか) ○講演会等のお知らせ ※いずれの催しも、大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。 ・H29.9.16(土) ころの医療センター駒ヶ根 病院祭(ここ駒祭) 詳細は病院ホームページをご覧ください。 ・H29.11.10(金)~11.11(土) 地域で暮らそうフォーラム2017! 今年度は、諏訪地区で開催します。 ・H29.12.13(水) 県の地域生活支援研修会との共催で、高齢者の精神障がいをテーマに講演会を開催。 講師:ころの医療センター駒ヶ根 埴原副院長 介護分野の関係者との連携を図る貴重な機会です。					
ま と め	・「見える化」について、参加者一人ひとりが考え、それぞれの思いを共有できた。 ・上伊那圏域の長期入院者の状況について、情報共有を図ることができた。 ・グループスーパービジョンの良い点を、日頃の実践の中にどう採り入れていくかが今後の課題である。					
次 回	・詳細については、後日お知らせする。					

平成29年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 精神障がい者地域生活推進 部会	参加者数	91人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成29年12月13日(水) 13:30 ~ 16:30				
主テーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶:「地域共生社会」の実現に向けて 2 情報提供:「介護施設における高齢精神障がい者の受入れの現状について」 3 講演:「高齢者の妄想性障害」 4 グループワーク 5 その他 					
主な意見など	<p>※ 今回の部会は、「平成29年度精神障がい者地域生活支援研修会」(主催:伊那保健福祉事務所)との共催という形で、開催しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 について(伊那保健福祉事務所 山崎副所長) <ul style="list-style-type: none"> ・これまで障がい・高齢・児童等、縦割りだった支援を地域全体で包括的に支える方向性が国で示されている。 ・高齢者と障がい児者が同一事業所でサービスを受けられるようにするため、新たに「共生型サービス」が位置づけられることとなった。介護保険事業所における基準該当障害福祉サービスとは異なる新しい制度である。 ・国の動きも把握しながら、本日は、高齢精神障がい者の支援について、ともに考えたい。 2 について(講師:養護老人ホーム みすず夢ゆりの里 生活相談員 竹村和子 氏) <ul style="list-style-type: none"> ○標記テーマに即して、実際の支援事例を挙げながら、介護分野における高齢精神障がい者の理解及び支援の難しさについて、ご自身の支援経験に基づき、具体的かつ分かりやすくお話いただいた。 ・夢ゆりの里では、H29.11.1現在、長期入居者41人を受け入れているが、うち19人が精神障がい者である。 ・支援事例(略) ・問題が起こったときの専門職による協議や連携、さらに中間施設のような社会資源の必要性を感じた。 3 について(講師:長野県立こころの医療センター駒ヶ根 副院長 埴原秋児 氏) <ul style="list-style-type: none"> ○標記テーマに基づいて、医学的見地から詳しい資料を用いて、分かりやすく丁寧にお話いただいた。 主なトピックは、次のとおり。 ・老年者疾患の医学的特徴と老年症候群 ・加齢とライフサイクル、認知機能と加齢 ・高齢者のパーソナリティと生活適応 ・妄想とは? ・高齢者に多い精神障害 ・統合失調症の理解と高齢統合失調症患者の特徴 ・高齢発症の妄想性障害 ・認知症の理解と認知症による妄想の特徴 ・高齢者のうつ病・うつ状態の理解と特徴 ・地域の暮らしと精神科医療機関 ○質疑応答(略) 4 について(参加者全員) <ul style="list-style-type: none"> ○1グループ6~7人、計12グループに分かれ、介護・障がい・医療関係者合同でのグループワークを行った。 ○グループワークの話し合いのテーマ <ol style="list-style-type: none"> (1) 自己紹介&支援の中で心がけていること (2) 精神障がい者を支援する上で、困っていること、難しさを感じていること (3) 精神障がい者を支援する上で、今後自分にできそうなこと ○約1時間のワークの後、3つのグループから話し合いの要点が発表され、全体で共有した。 ○まとめ(きらりあ 春日) <ul style="list-style-type: none"> ・介護分野と障がい分野の連携を深めるため、グループワークを設定した。お互いに顔の見える関係を作ることから、連携は始まる。頼られるのはうれしいが、頼るのはなかなか難しい。今日のワークで知り合った仲間をまずは「頼る」ことから、つながりを作っていくことも大切である。 5 について(伊那保健福祉事務所 北原保健師) <ul style="list-style-type: none"> ○研修会のお知らせ 講演:「結核の基礎知識と対応」(仮題) 中信松本病院呼吸器内科医長 鈴木敏郎氏 日時:H30.1.25(木) 18:00~20:00(受付 17:30から) 場所:伊那市保健センター 大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。 					
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢精神障がい者支援の現状と課題について、事例提供と講演を通して、情報共有を図ることができた。 ・介護・障がい分野合同のグループワークを通し、他分野の情報に触れ、支援ネットワーク拡大の一助にできた。 					
次回	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細については、後日お知らせする。 					

平成29年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回精神障がい者地域生活推進部会	参加者数	27人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成30年2月26日(月) 13:30 ~ 15:30				
主 テ マ	1 シンポジウム「地域で暮らしていくために、これまでとこれから」 ～「地域移行」で起こしてきたアクションとは～					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <p>○シンポジスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本圏域障害者総合相談支援センターWish 退院支援コーディネーター 紅林 奈美夫 氏 ・倉田病院 精神保健福祉士 平出 剛 氏 ・南信病院 精神保健福祉士 伊東 由美子 氏 ・上伊那圏域障がい者総合支援センターきらりあ 精神障がい者地域生活移行コーディネーター 春日 聡 <p>○進行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上伊那圏域障がい者総合支援センターきらりあ 相談支援専門員 矢野 芳子 <p>○標記テーマにて、松本圏域から2名、上伊那圏域から2名、計4名のシンポジストによる地域移行についてのシンポジウムが行われた。圏域の特色の違い等を対比させながら、地域移行支援のあり方について、和やかな雰囲気の中、話し合いが行われた。概要は、次のとおり。</p> <p>(1) 各シンポジストの自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジストお一人ずつ、経歴や現在の職場等について、簡単な自己紹介があった。 <p>(2) 所属組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各シンポジストの所属している機関(病院)の特色や概要について、各々話があった。 <p>(3) 圏域の支援センターと精神科病院の特色について</p> <p>ア 総合支援センター</p> <p>松本圏域は3市5村からなり、人口42万人。センターは3か所。Wishには、居住支援員を圏域独自で配置。上伊那圏域は2市3町3村からなり、人口約18万人。松本圏域のほぼ半分の規模。センターは1法人1か所。</p> <p>イ 精神科病院</p> <p>松本圏域には、入院病床のある精神科病院が8病院、計1181床。1年以上の長期入院者数は、485人。上伊那圏域には、入院病床のある精神科病院は3病院。1年以上の長期入院者数は、67人。</p> <p>(4) 圏域の課題について</p> <p>ア 松本圏域</p> <p>県内有数の精神科病院集中地域で、入院のみの病院もある。長期入院者、中でも高齢長期入院者が多い。地域移行・地域定着を行う事業所は9か所あるが、松本市内で実質稼働しているのは1か所である。</p> <p>イ 上伊那圏域</p> <p>長期入院者数は少なめだが、入院期間は短期であっても地域移行に課題を抱えている方も多い。地域移行・地域定着支援を行う事業所は6か所あるが、実質地域移行で稼働しているのはきらりあ以外では1か所である。</p> <p>(5) 精神保健福祉をめぐる歴史的経緯について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私宅監置から精神科特例による病院多立の流れの中、自宅監禁状態の精神障がい者は、病院が生活の場になってしまった。高齢長期入院者こそ、せめて残された人生、人間らしい地域の暮らしをしてほしい。 <p>(6) 長期入院者の地域移行支援の成功事例発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉田病院、南信病院それぞれのワーカーから、地域移行がうまくいっている事例の紹介があった。 ・ともに病院側の地域へ押し出す力と、福祉側の引っ張り出す力が相互作用して好事例につながっていた。 <p>(7) 長期入院で退院の意思表示がない方への支援のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院意思がある方の地域移行支援も大切だが、長期入院で退院意欲を喪失してしまった方の支援はより重要である。外部の人間が病院に入ること、新たな風・刺激になる。その中でもピアサポーターの力は大きい。 <p>(8) 最大の課題、両圏域に共通する課題は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行・地域定着を担う相談支援専門員が不足している。地域での受入調整に相談支援専門員は必須。指定一般相談支援事業所及びそこに携わる相談支援専門員数の増加が、最大かつ共通した課題である。 <p>(9) おわりに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗への恐れや不安はあるが、とにかく行動を起こしていくことが、現状を変えていくカギである。 					
ま と め	・松本圏域のゲストをお迎えし、松本・上伊那両圏域の特色や相違点などに焦点を当てながら、これまでの地域移行支援を振り返り、退院して地域で安心して暮らすために必要な支援は何なのかをともに考えることができた。					
次 回	・今年度の部会は、本日が最終となります。1年間、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き、よろしくお願ひします。					